

報道機関の皆様へのお願い

- 原子力発電で使用した燃料を再処理した際に生じる「高レベル放射性廃棄物」の地層処分については、現在、北海道の2町村において、実施主体の原子力発電環境整備機構(NUMO)が法律「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」に従って文献調査を進めています。
- 日本原子力研究開発機構の幌延深地層研究センターは、国の研究機関として、高レベル放射性廃棄物の地層処分技術の信頼性や安全性を向上させるための研究開発を北海道幌延町で行っています。放射性廃棄物や放射性物質を持ち込まないで研究していますし、幌延深地層研究センターが処分場になることはありません。
- 法律に従って処分事業が進められているにも関わらず、幌延深地層研究センターが将来処分場になるのではないかと、といった懸念や疑問を持つ方がいらっしゃる中で、私どもは広聴・広報活動を積極的かつ慎重に行っています。
- このような状況を鑑み、報道機関の皆様にはより適切な文言や表現にて報道していただき、多くの国民の皆様には正確な情報が伝わるようお願いするものです。
- 特に、「高レベル放射性廃棄物」を「核のごみ」や「核のゴミ」と表記することが多く見受けられます。紙面の都合上、短くわかりやすく表現したい趣旨は理解できますが、私どもは高レベル放射性廃棄物を対象として、長きにわたって研究開発を行ってきています。新聞倫理要綱に基づく正確な表記をお願いしたいです。

記事のタイトル例	問題点
地下350mの拡張坑道を公開 北海道幌延町の核ごみ施設	「核ごみ施設」は実際に処分する施設であることを想像させます。最も不適切な表現です。
北海道幌延町「核のごみ」処分の研究施設 地下350mの様子を報道陣に公開 幌延深地層研究センター 核ゴミ処分研究「理解を」幌延で施設公開 一般見学にも力	「研究施設」や「処分研究」の表記は正確ですが、「核のごみ」と繋げて表記することで、実際そこで処分することを想像させてしまう不適切な表現です。
幌延 調査坑道を公開 深地層研 地下500メートルへ掘削進む	*** 良好事例 *** 見出しや記事においても「核のごみ」という表現は使用しておらず、「 高レベル放射性廃棄物の地下処分技術を研究 」と記載しており、問題点はありません。

原子力機構における高レベル放射性廃棄物の扱い

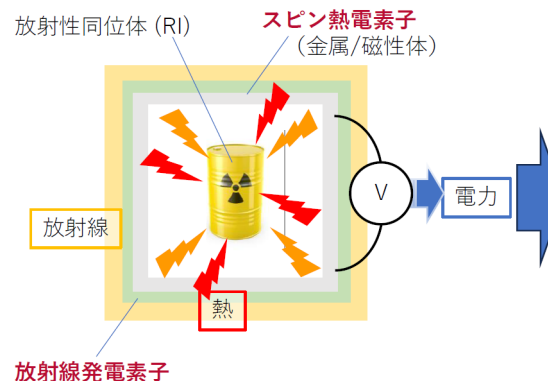
—原子力自体をSustainableにするための研究開発と問題点解決の方向性—

➤ 原子炉で核反応を起こさせると同時に核分裂生成物等が生成され、その中にはプルトニウムやマイナーアクチノイドと呼ばれる高エネルギーで半減期が極めて長い元素が含まれる(高レベル放射性廃棄物)。これを中性子を使って改質し毒性の低減や半減期の短縮などのトリートメントを行う。同時に高レベル放射性廃棄物に含まれる希少金属(白金、イリジウム、バナジウムなど)を抽出して再資源化する。【大洗研、原科研、核サ研、J-PARC】

- プルトニウムは抽出して燃料として再利用、その他のアクチノイドは 高速炉で中性子を当てて(燃やして)別の物質に転換することにより毒性の低減、半減期の短縮を実現する。【大洗研、核サ研】

- また、希少金属の抽出技術についても研究開発中。【原科研】

- 更に、高レベル放射性廃棄物から発生する熱や放射線などをエネルギー源として再利用することも研究開発中。【原科研】



高レベル放射性廃棄物は地中に埋めるという発想から、燃やす、分別リサイクルという方向性に転換する。どうしても残る最後の残滓や既に発生している廃棄物は地層処分and/or低レベル放射性廃棄物として埋設処分。地層処分技術の信頼性向上のための研究開発中。【幌延、東濃】